



校長室だより

2022年12月23日
こさき こうじ
校長 小崎 功二



学校 HP

天邪鬼（あまのじゃく）

（※今日の冬休み前全校朝会の校長講話で、以下の内容を子供向けに噛み砕いて話しました。）

天邪鬼は、悪鬼神もしくは小鬼として言い伝えられている日本の妖怪です。

その起源は『古事記』や『日本書紀』にある神話の中に見られ、中国の伝説とも融合しながら、日本各区域に民間説話として語り継がれてきました。

その成り立ちや各地域により異なる伝承内容の詳細について詳しく調べたことはありませんが、一般的に「人の心を見計らって悪戯をしかける子鬼」というイメージが定着しており、そこから転じて、現在では「他者（多数派）の思想・言動に逆らうような言動をする"ひねくれ者"、"つむじ曲がり"」を指して、「あまのじゃく（な人）」と称することもあります。

天邪鬼にまつわる話は日本中に数々あるのですが、私は、子供の頃にテレビで観た昔話の短編アニメーションの中で、そこに描かれていた天邪鬼の姿が心に残っています。このアニメーションは、どこかの地域の伝説を基にしたものなのか、或いは上記のような「あまのじゃく」の一般的なイメージを基にして番組制作者が筋書きを考えたものなのか定かではありませんが、その話の中に登場した天邪鬼は、村の外れに一人で暮らしていて、人の心を常に逆なでするようなひねくれ者でした。お話は以下のような内容だったと記憶しています。

村人が「おはよう」と言えば「こんばんわ」。「今日はお祭りだからおいで」と誘っても姿を見せず、夜になってから寝静まった家々の扉を叩いて回る。村人はそんな天邪鬼に手を焼きながらも、隣人として温かく接していました。しかし天邪鬼は、そんな村人の優しさに応えることなく悪さを繰り返し、村人がせっかく料理のお裾分けを持ってきてくれても、「ありがとう」と言いながら目の前で地面に投げ捨てる始末です。

ある嵐の夜のこと。近くの川が増水し、濁流が今にも橋を押し流しそうになっていました。村人が家々にこう呼びかけて回ります。「橋が危ない。橋には近づくな！川には近づくなよ！！」次の日、嵐は治まりました。橋は濁流に流されていました。その日を境に、その後、天邪鬼を見た者は誰もいませんでした。

教育者として、これまで私は子供たちに、ただ闇雲に「素直になれ」「教師に従順であれ」と説いたことはありません。以前、校長室だより第39号「学都仙台」（2022年2月18日発行）の中でも述べたように、教育の場である学校で、子供たちと「自由」という理念を共有するために、私が子供たちに求めるのは、自分の言動には自分で責任を持つこと、そして、「自分のための助言」や、「本当に自分のために思ってくれる人の心」に気づき、自分を見失わないための「思慮深さ」や、それに基づく「判断力」、さらに内省による「謙虚さ」を持つことです。

私たち郡山小学校の教職員は、一人一人の子供たちを理解し、子供たちのために思い、時には厳しく指導しながら子供たちとの信頼関係を築き、郡山小学校の子供たちが決して濁流にのまれることの無いように、これからも日々努力して参ります。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年12月23日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）